

令和6年度 第3回全国健康保険協会山形支部評議会議事概要

開催日	令和7年1月14日（火）10：00～12：00
開催場所	全国健康保険協会山形支部 会議室
出席者	江口評議員、金山評議員、菅野評議員、齋藤評議員、保科評議員、水澤評議員、吉原評議員（五十音順）
議題	1. 令和7年度山形支部健康保険料率について 2. 令和7年度山形支部事業計画（案）及び令和7年度山形支部保険者機能強化予算（案）について
議事概要 （主な意見等）	各議題につき、事務局より資料に基づき説明。主な意見等は以下のとおり。 1. 令和7年度山形支部健康保険料率について 事務局より説明。 【被保険者代表】 令和5年度のインセンティブ制度の結果については喜ばしく思う。2位の支部とはどれくらいの差があり、全国ではどのような状況にあるのか。また、現時点において平均健康保険料率10%維持については賛成するものの、いずれ10%を超える時が来ることは避けられない中で、どれくらい先延ばしできるか、いざ10%を上げるようになったその先にはどうしていくのか、制度の改正を含め今のうちから議論が必要である。 【事務局】 インセンティブ制度の結果は、山形支部は374.9点、2位の熊本支部372.1点とそこまで大きな差はない。実施率だけではなく伸び率も加味されるため、毎年1位を維持するのは難しいが、着実に取組を実施してまいりたい。今後の保険料率の議論については、5年10年といった単位でみると単年度収支差がマイナスに振れる見通しをお示しした。協会けんぽに財政運営責任がある中で、収支見通しなどをもとに本部などで中長期的な視点で議論していく。 【被保険者代表】 インセンティブ制度はすばらしい結果であった。巨額の準備金がある中で、準備金の役割のイメージ図という資料を提供いただき感謝する。これらの図をもとに、準備金の流用や還元について議論を進めていただきたい。10%維持という中長期的な考え方は賛同しながらも、物価高や賃金の上昇を踏まえると、払う側からすると少しでも安いほうが良いという思いはお汲み取りいただきたい。そして、いかに長く10%を維持するかという安定した財政運営も重要である。人口減少の中でいかに多くの方が健康で長く働けるかが協会けんぽにとっても基本的な主眼ではないか。 また、4.2兆円の準備金の柔軟な活用について検討していただくとともに、16.4%の国庫補助は20%まで引き上げを要求していただきたい。働く者としては居住地と適用先が異なる場合もある中

で、地域間格差のない保険料率の研究もしていただきたい。

【事業主代表】

インセンティブ制度の結果も踏まえ、保険料率引き下げの見込みという良い結果となり、このまま取組を継続していただきたい。マイナ保険証による保険証回収が不要になるなど、業務も軽減していくだろうことからデジタル化を推進するとともに、協会けんぽの認知度向上に努め活動状況をもっと広めていただきたい。

【学識経験者代表】

9.75%という保険料率はインセンティブ制度の結果も踏まえ素晴らしいものと思う。保険料収入だけでは賄えず国庫補助や準備金の積み立てをしている中で、高齢者への拠出金の多さには不公平感を感じる。世代間の助け合いということではあるが、不公平感の解消に向けた制度改正も含めた国の施策を期待したい。県内では協会けんぽの存在感はとても大きいので、これからも県を引っ張っていただきたい。

【事業主代表】

健診受診率の高さなど、山形支部の実績を周知することが今後の施策推進につながるものと思うので、自社でもしっかり行っていきたい。他の点については皆さんと同様。

【被保険者代表】

健康保険料率については賛成。この率を維持するにあたって、協会けんぽでは様々な取組を行っているが、我々に協力できることや注意すべきことはどういったものがあるか。

【事務局】

健診受診率は10年以上連続1位であるが、保健指導やその結果による翌年の保健指導対象者の減少についてはまだまだ改善の余地があるため、各事業所やご担当者様のご理解ご協力をいただいて取組を進めていきたい。また、医療機関の受診が必要なのに受診していない方がいらっしゃるため、事業所には健診結果を把握していただき、必要な方には受診を促していただきたい。

【学識経験者代表】

山形支部の健康保険料率については9.75%で意見がまとまった。今後平均保険料率10%維持には様々な課題があることもご指摘いただいた。支部長意見にはこれらを反映していただきたい。

2. 令和7年度山形支部事業計画（案）及び令和7年度山形支部保険者機能強化予算（案）について事務局より説明。

【学識経験者代表】

電子申請システムについてはどのような進捗状況か。

【事務局】

令和 8 年 1 月の導入にむけ本部を中心に準備を進めている。ご意見をいただきながら、ブラッシュアップしていきたい。

【事業主代表】

ベジチェックの実施は、以前予定されていた血圧の高い業態への血圧計の貸与と並行して実施するものか。

【事務局】

今回のベジチェックは、単独で実施する新たな取組となるもの。

【被保険者代表】

健康保険料率が低い新潟支部の取組として、運輸業界の血圧リスクが高く、出発前にアルコールチェックと合わせて血圧測定も実施することで、健康指導が実施しやすい環境を整えることができたという事例があった。こういった好事例も参考にしていいただければと思う。

こども健康教室の実施は小さいころからの健康に関する対応ということで重要と考える。社会全体で支えあうのが保険制度であるということも盛り込んでいただきたい。

【学識経験者代表】

事業所との連携が深まることで様々な施策が浸透していくので、やまがた健康企業宣言の登録事業所数の増加も頑張っていいただきたい。

【学識経験者代表】

事業所との連携強化ということも重要である。一方で、デジタル化によって加入者と直接つながることができるという時代でもあるので、加入者と事業所とで広報の仕方を変えるなども考えられるので、デジタル化を活用していただきたい。